

2017 年度日本建築学会北海道支部技術賞 受賞者一覧

◆北海道支部技術賞

株式会社山脇克彦建築構造設計

山脇 克彦君

紺野建設株式会社

紺野 将君

紺野 巧君

ササキホーム

佐々木陽平君

表彰技術名一最小断面道産製材によるHPシェル建物の設計施工技術の開発と実現

(1) 審査経緯・講評

日本建築学会北海道支部技術賞表彰規定 第7条第2項に基づいて、支部技術賞選考部会を構成する委員を確認し、選考部会を計2回開催した。

初回の技術賞選考部会では、応募のあった下記3件の内容について協議した。

応募された技術等の名称：「真宗大谷派函館別院の保全活用、建築史における特徴解明、構造特性分析に関わる総合的技術プロセス」、「最小断面道産製材によるHPシェル建物の設計施工技術の開発と実現」、「汎用HPエアコンを熱源とした寒冷地型高断熱高気密住宅用の空調システムの開発」(受付順)

募集要領の選考基準に定められる、「地域性・独自性」、「有効性・新規性」、「継承性・継続性」の3つの観点に基づき技術内容を把握した。応募書類にある技術内容について、必要に応じ該当する応募者に質問文書を送り、適宜、追加資料の提出を求めることとした。

第2回の技術賞選考部会では、提出のあった回答書および追加資料を併せて、技術内容について再度議論したうえ、投票により「最小断面道産製材によるHPシェル建物の設計施工技術の開発と実現」を技術賞表彰候補とした。

最小断面道産製材を用いたHPシェル建物の設計施工技術の開発・実現に意欲的に取り組んでおり、なかでも選考部会ではそのプロセスに評価の視点が集まった。地元の技術者の高度な技能発揮はもちろんのこと、地元の中高生がデザイン段階から参加している。中高生の関わりは、デザイン段階に留まらず各部材の加工や現場施工体験など、多様な場面に広がりを見せている。この取り組みの仕立ては、「地域性・独自性」の点で高く評価された。技術者の高齢化や人材不足が懸念されるなか、デザインから建物が出来上がるまでの一連のプロセスを通して、線材から曲面が成立するHPシェル構造を通じた空間への興味・関心の深化、あるいは技術を通じた地域内での世代間交流などを中高生に経験してもらう取り組みは、「継承性・継続性」の点で高く評価された。

後日、支部役員会にて、技術賞選考部会から技術賞表彰候補として報告し、審議の結果、2017年度日本建築学会北海道支部技術賞に決まった。

(文責：岡本 浩一)